EHIME UNIVERSITY 愛媛大学

愛媛大学の教育ＩＲについて

2011. 11. 4

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室
副室長・教授 秦 敬治
k-hata@iec.ehime-u.ac.jp

本 日 の 内 容

1. 教育の質保証における愛媛大学の教育IR
2. 教育IRとそのアセスメント事例
3. 教育IRの今後の方向性
4. 今後の課題

EHIME UNIVERSITY 愛媛大学

1.教育の質保証における愛媛大学の教育IR

教育IRには、

①全学レベルでのIR

②カリキュラム・レベル（学部・学科・コース）でのIR

③授業レベルでのIR

④プログラムや取り組みごとのIR

⑤学生集団（学生の属性や特性）によるIR

といった、各レベルや領域ごとのIRがある。

1.教育の質保証における愛媛大学の教育IR

愛媛大学の全学IR担当部署＝経営情報分析室

しかし、教育に関するIRは教育企画室が担当

教育企画室には3つの部門が設置されている

教育企画室（Office for Educational Plannning and Research）
第１部門　教育・学習支援部門（Division of Support for Teaching and　Learning）
第２部門　教育調査分析部門（Division of Educational Research and Analysis）
第３部門　学生能力開発部門（Division of Student Develpment）

1.教育の質保証における愛媛大学の教育IR

第１部門：教育・学習支援部門

教職員の教育活動及び学生の学習活動の支援を行う。
・授業改善、ティーチングポートフォリオ、授業コンサルタント・・・

第２部門：教育調査・分析部門

教育・学習の実態・成果に関する調査の企画・実施・分析を行う
・各種アンケート調査・分析、ラーニングアウトカムズの支援、カリキュラム・アセスメント・チェックのワークショップ、アンケート改革プロジェクト・・・

第３部門：学生能力開発部門

学生のリーダーシップ、ピア・サポート力等を高める教育プログラムの開発・実施・評価を行う。
・学生リーダー養成、TA／SA研修、スチューデント・キャンパス・ボランティアの育成、スタディヘルプデスク、附属高校・大学院での授業・・・

1.教育の質保証における愛媛大学の教育IR

これまでの愛媛大学の教育IRは、多量の教育情報を収集し、それらを多面的に分析し、効果的に活用してきたわけではない。各種アンケートを実施し、報告書は作成してきたが、改善に直接結びつけたわけではない。（改善を目的にしていたわけではない）

↓

愛媛大学の教育IRは、教育の質保証に向けて今、改革をはじめたばかりである。

↓

その方向に進み始めた理由は？？？？

1.教育の質保証における愛媛大学の教育IR

教育企画室の3部門が連携していることがきっかけである。

FD(ミクロレベル、ミドルレベル・マクロレベル)を行う第1部門と学生の能力開発を行う第3部門のPDCAを効果的に行うには、第2部門による教育IRの充実が不可欠となった。

そのため、愛媛大学の教育IRは教育の質保証や改善のために有効な手法や設問を使うことを前提として改革が進み始めた。

各学部、共通教育センター、学生支援センターとの連携だけではなく、経営情報分析室、自己点検評価室の協力を得ながら検討を行っている。

2.教育IRとそのアセスメント事例

これまで教育企画室では、教育コーディネーター研修会を通じてDP・CP・APの策定・改善、カリキュラムマップの構築、カリキュラムチェックリストの構築、カリキュラムアセスメント手法の決定、カリキュラムアセスメントの評価を導入・支援してきた。

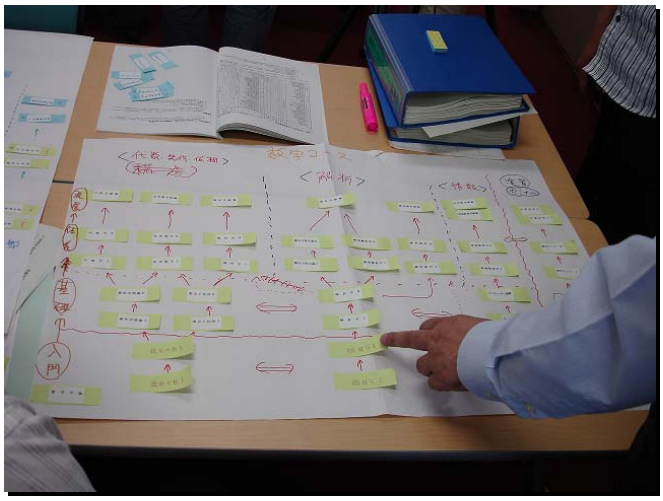
この中で教育IRに強く関係するのは、カリキュラムチェックリスト、カリキュラムアセスメント手法の決定、カリキュラムアセスメントの評価である。

カリキュラム・チェックリスト

○○学科(課程)○○コースのカリキュラム			○○学科(課程)のディプロマ・ポリシー(DP) (◎=DP達成のために、特に重要な事項、○=DP達成のために、重要な事項、△=DP達成のために、望ましい事項)				
			(知識・理解) 1. 人文諸学の学問内容及び方法を理解している。	(思考・判断) 2. 自ら設定した課題について、人間文化・地域文化・歴史文化・言語文化のいずれかの学問領域の研究方法を用いて、考察することができる。	(関心・意欲) 3. 人文学の知を実践の力へと高めることができる。 4. 社会における自分の役割を自覚することができる。	(態度) 5. 人文学の知をもって地域社会及び国際社会のニーズに応えることができる。 6. 生きた文化や生きた社会を創ることに寄与できる。	(技能・表現) 7. 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって的確に伝えることができる。
授業科目名	授業の目的(箇条書) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書に記入)	授業の到達目標(箇条書) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書に記入)					
思想文化論	17~18世紀にイギリスに於いて展開された哲学思想（いわゆるイギリス経験論哲学）を取り上げ、それぞれの哲学思想を考察することによって、哲学史的知識を修得すると同時に、哲学的思索の特質について理解することを目的とする。	（1） イギリス経験論哲学の特質を理解する。 （2） 哲学的概念の意味を理解する。 （3） 哲学的思索に習熟する。	1 ◎ 2 ◎ 3 ◎	1 ○ 2 ○ 3 ◎		3 △	
哲学概論	哲学において伝統的に取り扱われてきた諸概念・諸問題を考察することを通して、哲学という学を理解し、哲学的に思索する態度を身につけることを目的とする。	（1） 哲学的概念の意味を理解する。 （2） 哲学的なものの見方を身につける。 （3） 哲学的思索に習熟する。	1 ◎ 2 ◎ 3 ◎	1 ○ 2 ○ 3 ◎		3 △	
倫理思想史概論	西洋倫理思想を、古代ギリシア時代から、中世、ルネッサンス期、近代市民社会を経て、今日のテクノロジーの時代にいたるまで、その変遷を概観しながら、代表的な西洋倫理思想の特徴について学ぶ。	(1) 西洋の倫理思想の特徴を把握する。 (2) 倫理学の基礎概念を理解する。 (3) 倫理的な問題意識を喚起する。	1 ○ 2 ◎ 3 ○	1 ◎ 2 ○ 3 ○	1 ○ 3 ◎	3 △	
人間存在論	人間存在論という立場がどのような観点から人間を考察するかを規定し、諸科学とは異なる、その学問的方法としての意味を明らかにする。それに従って、人間存在を自然と歴史的社会の中に投げ込まれて生きる存在として捉え、その中で人間存在としての自己がいかにして形成されるかを解明する。	(1) 哲学としての人間存在論と諸科学(特に自然科学)の探究の在り方の相違を理解することができる。 (2) 諸科学の立場を哲学的視点から分析、評価し、その問題点を指摘することができる。 (3) 人間としての自己の存在と、自ら学ぶべき学問との関係を明確にし、それを的確に表現することができる。	1 ◎ 2 ○ 3 ◎	1 ○ 2 ○ 3 ◎	3 △	3 △	
芸術論	20世紀以降の美術や音楽の諸傾向について知る。芸術について論じる上で欠かせない用語について検討をおこなう。	新しい芸術のありかたについて、自分のこれまでの趣味を超えて、論じることができる。	◎	○	△	△	◎
実験心理学	ヒトは常に様々の刺激情報を外界から受け取り、それを適切に処理して、行動として対応している。適切に対処するための仕組みがどの様なものであるか、行動主義の立場から、あるいは認知心理学の立場から学ぶ。ヒトやヒト以外の動物を対象にした実験事実を紹介しながら、意図等の主観的な言葉を用いないでヒトの行動を理解するのが目的である。	（1） 実験心理学は日常の「心理学」とは全く違うことを説明できる。 （2） 行動の基礎としてのココロの仕組みを説明できる。	(1) ○ (2) ◎	(1) ○ (2) ◎	(1) ○ (2) ○	(1) △ (2) ◎	(1) △ (2) ○

法文学部人文学科のCCL

カリキュラム・マップ

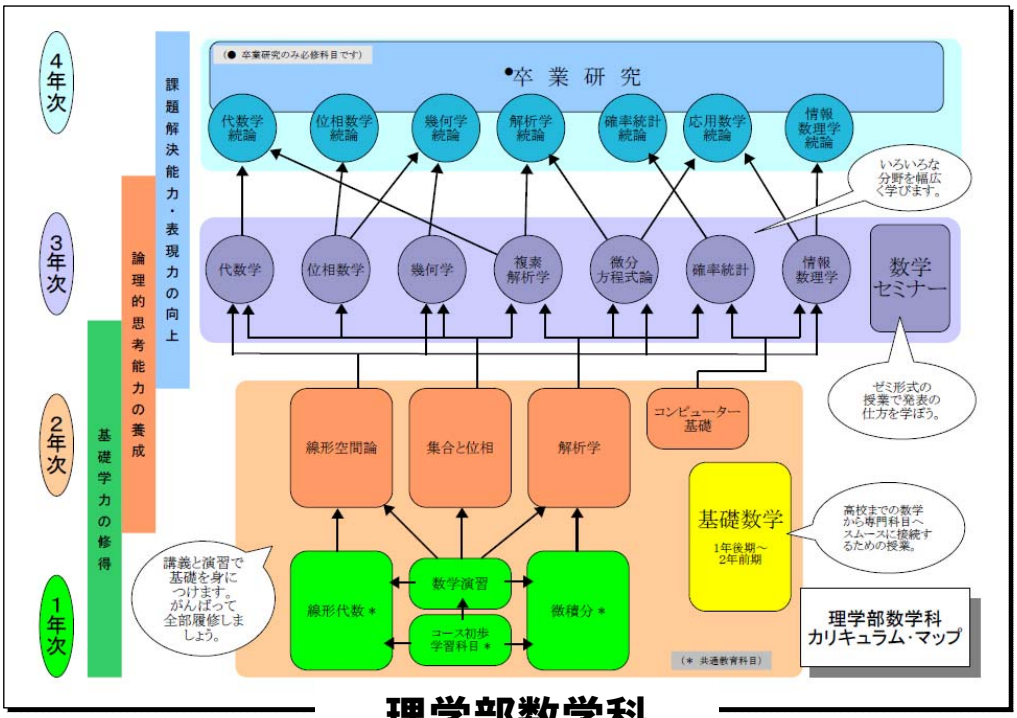


理学部数学コース

法文学部総合政策学科

学問分野の多様性を表現する多様な簡易マップ

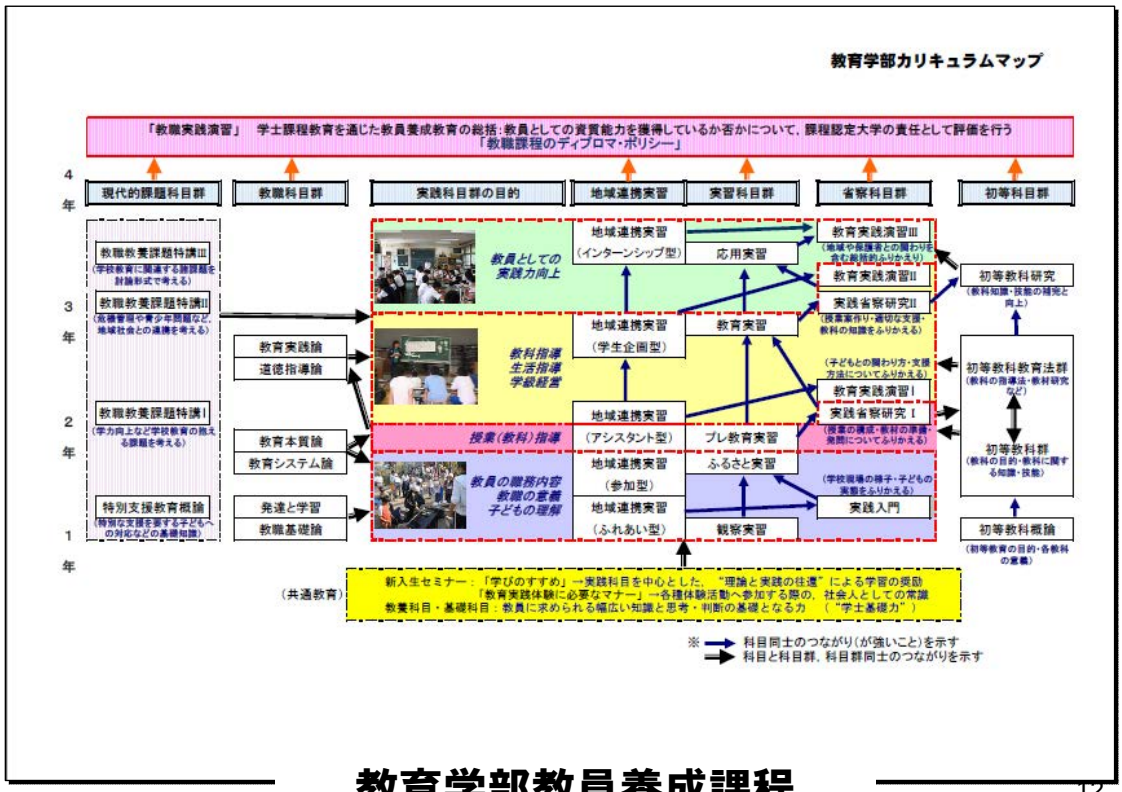
カリキュラム・マップ



理学部数学科

EHIME UNIVERSITY 愛媛大学

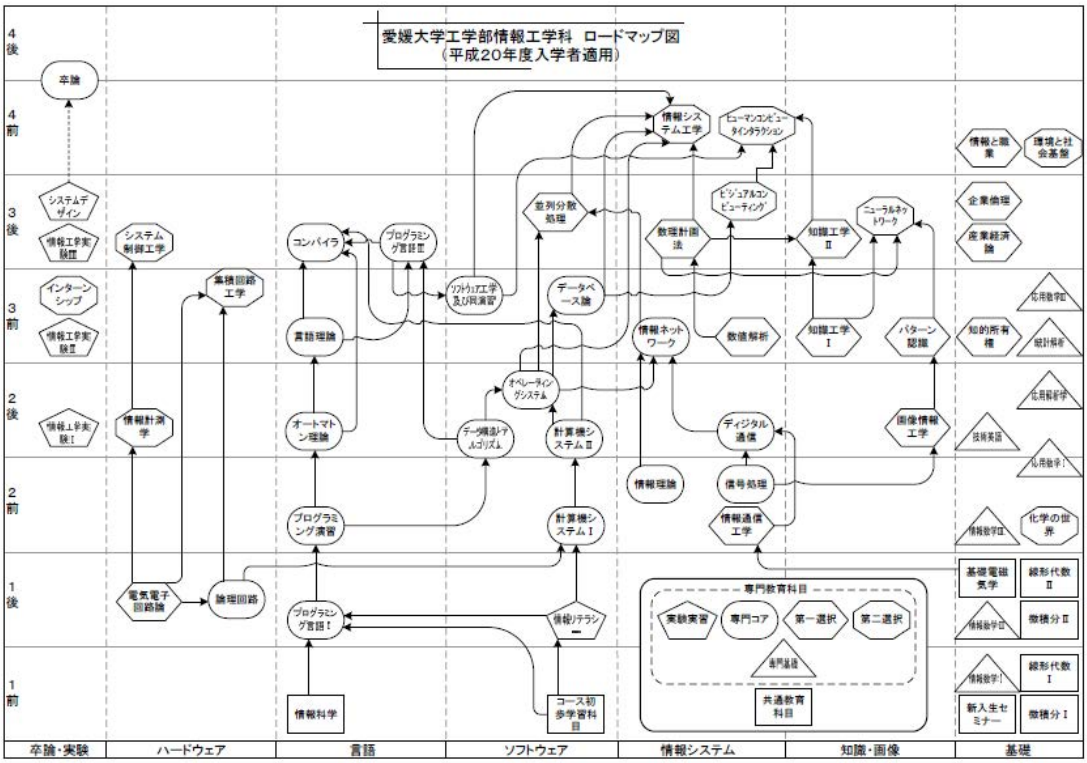
カリキュラム・マップ



教育学部教員養成課程

EHIME UNIVERSITY 愛媛大学

カリキュラム・マップ



EHIME UNIVERSITY 愛媛大学

工学部情報工学科

EHIME UNIVERSITY 愛媛大学

カリキュラム・アセスメント手法の決定

番号	名　称	実施時期	実施頻度	対　象	質問項目（対応DP含む）	手　法	評価者	実施責任者
1	卒業時アンケート	1～3月	毎年	4回生	・学習成果（DPとの関連を含む） ・学部・課程等カリキュラム満足度 ・就職支援満足度 ・学生支援満足度 ・施設・設備の満足度	質問紙	学生	統括教育コーディネーター・学部自己点検評価委員長
2	教育実習事前・事後アンケート	7月～10月	毎年	3回生	・教育実習前後についての資質能力に関する自己評価 ・教員養成カリキュラムへの要望	質問紙（チェックリストおよび学習省察シート）	学生	実習カリキュラム委員会委員長
3	教員養成カリキュラムシンポジウムによる他者評価	1月21日	毎年		・シンポジウムでの発表内容評価 ・学外者等によるカリキュラム評価	質問紙（チェックリスト） ヒアリング	外部評価委員	実習カリキュラム委員会委員長
4	学生によるカリキュラム評価（学生モニター会議）	2月	毎年	4回生・大学院生（各所属コースから2名ずつ）	・学部・学科カリキュラム満足度（良い点、改善提案）	コンサルタントによるグループヒアリング	学生	教務委員長
5	カリキュラムチェックリスト（CCL）	1月	2年に1回	全授業科目	・DPと到達目標の整合性	シラバスチェック	教育コーディネーター	統括教育コーディネーター
6	授業評価・FD報告書	2月	毎年	学部教員	・シラバス ・授業内容の点検 ・DPやカリキュラム・マップとの整合性	教員自己評価	教員	教務委員長
7	授業カンファレンス	4月～2月	毎年	学部教員	・授業内容や時間外学習に関する改善・工夫 ・DPやカリキュラム・マップとの整合性	教員相互評価	教員	教務委員長

EHIME UNIVERSITY 愛媛大学

カリキュラム・アセスメントの評価（他者評価）

〇〇学部

DP 1
基礎科学的知識と技能を修得して自己の中に体系化し、それを基盤にして自律的に知的能力を発展させることができる。

	項目	妥当である	改善の余地がある	理由
1	DP達成度	評価が適切である	評価が適切でない	
2	根拠	十分な根拠が示されている	根拠が不十分である	
3	アセスメントの手法	適切な手法が選択されている	適切な手法が選択されていない	
4	アセスメントの内容・項目	内容や項目が適切である	内容や項目が適切ではない	
5	今　後の対応	十分に検討されている	十分には検討されていない	

EHIME UNIVERSITY 愛媛大学

2.教育IRとそのアセスメント事例

【IRに関する勉強会】

1.学長、経営情報分析室、教育企画室によるIR勉強会
- IRとは何か？
- 教育IRの事例
- 今後のIRの方向性
- IRを行う環境整備

2.学部長クラスへの教育IRを使った勉強会（本年度中に実施予定）

2.教育IRとそのアセスメント事例

【学部・大学院・附属高校との連携】

1.教育学部と教育企画室の連携で「学部－全学連携IR体制の構築：教育学部の教員養成を中心に」愛大GP2011採択

2.ジェネリックスキルを修得するのに効果があるという分析結果が出た共通教育授業（愛媛大学リーダーススクール）の手法を大学院（理工学研究科ICTスペシャリスト養成コース）必修授業、附属高等学校1，2年生に対するキャリア教育に採用

3.授業コンサルタント（ミクロレベルFD）、カリキュラムコンサルタント（ミドルレベルFD）通じた学生に対するヒアリングの実施とフィードバック

3-1.教育IRの今後の方向性

【ジェネリックスキル修得に関する改善】

1.既存のアンケートの見直し

新入生アンケート⇒APの確認
学生生活実態調査⇒満足度調査の充実
授業評価アンケート⇒DPの到達度測定
卒業予定者アンケート⇒CP，DPの到達度測定

2.新規アンケートの充実と手法の見直し

（新規）
各学年終了時アンケート（これまでは授業評価アンケートを除けば入学時、卒業時しか行っていない）

（手法の見直し）
・各部主導アンケートから、全学アンケートに各学部設問を加える
・協力が得られる学部からパネル調査（成果や改善を行うにはパネル調査が有効）⇒教育学部が愛大GPにより教育IR体制構築

3-2.教育改革の今後の方向性

【ジェネリックスキル修得のための取り組み】

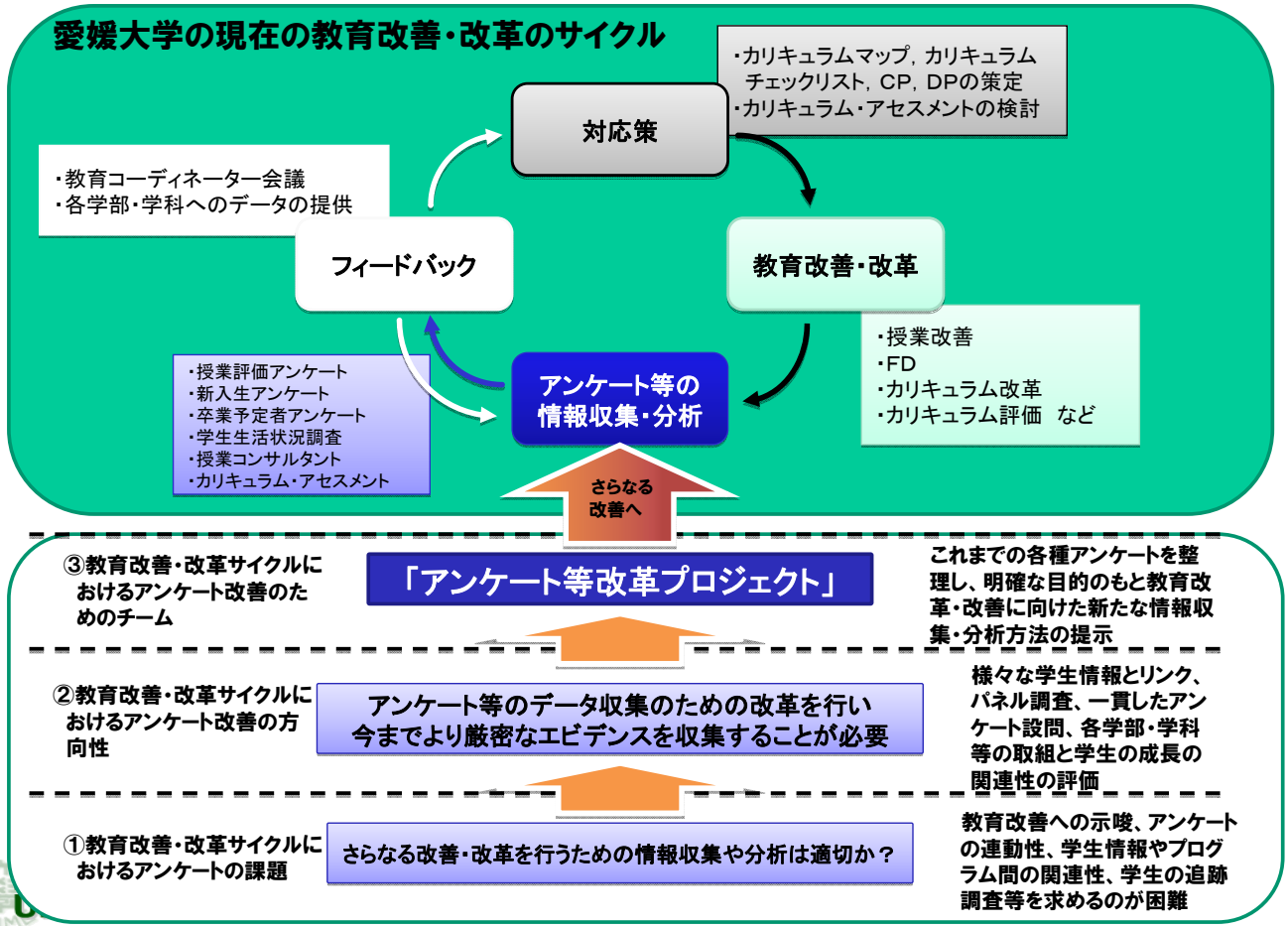
教育コーディネーター研修会テーマ
2011年度　共通教育におけるジェネリックスキル育成
2012年度　学部教育におけるジェネリックスキル育成
2013年度　大学院教育におけるジェネリックスキル育成

下線部分のアセスメントの必要性

【愛媛大学での学士力育成のための取り組み】

正課教育、準正課教育、正課外活動による学士力の育成
（本年度、理論的枠組みとなる体系図を構築中）

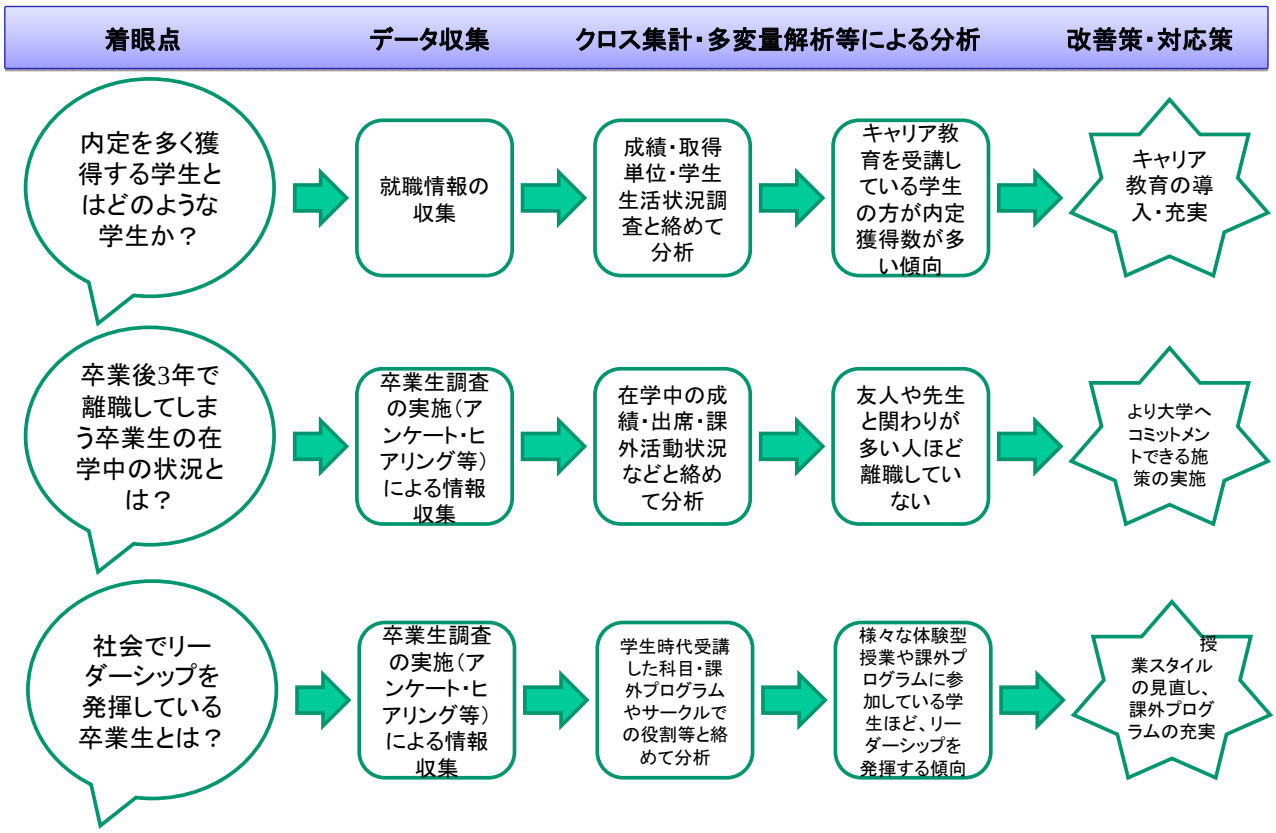
さらなる教育改善等のための情報収集・分析について



アンケート等改革によるデータ分析による改善イメージ（例）

着眼点	データ収集	クロス集計・多変量解析等による分析		改善策・対応策
授業時間外学習が多い学生とはどんな学生かな？	授業時間外学習時間の情報収集（アンケート等）	学生生活状況調査と絡めて分析	朝食をきちんと取る学生は自宅学習の時間が長い傾向	食育プログラムの導入・充実
新入生セミナーはその後の授業に役立っているのだろうか？	新入生セミナーの成績や出席状況	他の成績や出席状況と絡めて分析	新入生セミナの成績や出席状況とその他の成績には相関関係あり	新入生セミナーの内容、手法等の充実
DP，CPの到達度が高い学生の傾向は？	DP，CPの到達度に関する調査	履修科目、単位修得、GPA、学生生活状況調査と絡めて分析	ある授業・プログラム及びある手法の授業等を多く受講している学生は到達度が高い傾向	カリキュラム改革、授業方法内容の改善

EHIME UNIVERSITY 愛媛大学



EHIME UNIVERSITY 愛媛大学

4.今後の課題

1.学生の適切な能力評価指標が整っていない（特にジェネリックスキル）
2.愛媛大学の教育IRは、これから充実へと向かおうとしている段階であり、まだまだ実績が出せている段階ではない。効果的な教育IR手法を開発し、それらを導入しながら教育IRのPDCAを行っていく必要がある。

3.経営情報分析室、自己点検評価室、各学部等との更なる協力体制を築き、全学IRの一貫としての教育IRの位置付けを明確にする必要がある。

4.教育IRを行うことにネガティブな教員も少なくない。全学同時進行で教育IRの成果を出すことよりも、積極的な学部を支援することで、その成功事例に基づき、教育IRの必要性や教育企画室に対する信頼度を増す必要がある。

5.愛媛大学に相応しいIR体制の構築が必要である。

EHIME UNIVERSITY 愛媛大学